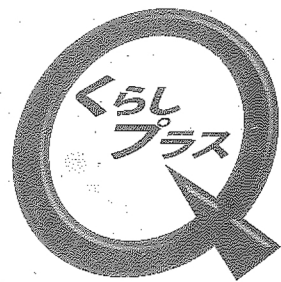


新型コロナウイルス感染が広がる中、北九州市門司区の印刷会社「グランド印刷」が開発した飛沫防止のための段ボール製パーティションの売れ行きが好調だ。首都圏では8日に再び緊急事態宣言が出されるなど終息が見通せないが、コロナ禍でのライフスタイルに適応しつつ楽しい気分になる商品づくりを模索している。

【宮城裕也】

段ボールで感染防止グッズ



いると聞き、披露宴などの円卓で使えるパーティションを作ったほか、11月には会食時に使える手持ちのシールドも販売した。シールドはパーティション製作過程で余る透明ペットに、ひげ模様などの面白いデザインを印刷した。

「印刷会社が段ボールでパーティション?」と驚くかもしれないが、同社は2007年から印刷加工がしやすい段ボールに着目し、机や棚、打ち合わせテーブルなどのディスプレイ(展示品)作りを手がけ、段ボールとの関わりは長い。新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が出された20年5月、感染対策でアクリル板パーティションが始められた時、自らの技術で製作できないかと考え、幅90センチの受付業務用の段ボール製パーティションを製作。厚さ8ミリの2枚重ねの段ボールの間に透明ペットのフィルムを挟み自立させ、下部に書類などを受け渡すための口を開けた。アクリル板と違って段ボールは持ち運びや組み立てが簡単でリサイクルできる利点を生かし事業化を決めた。

試しに会社の窓口を設置したところ、来訪する取引業者

の目に留まり、次第に全国から注文が殺到した。「感染をしのぐだけではなく、印刷を通して生活も対策も楽しくできないか」と小泊勇志社長は思案。バーやラウンジの雰囲気にあった黒を基調とした防水加工のものや、小倉織ブランド「小倉編織」(小倉北区)とタイアップした小倉織模様のもなど場所や用途に応じてサイズやデザインの種類を増やした。

感染の増減でニーズも変化した。緊急事態宣言が解除された6月以降は外部との接触を想定した受付用パーティションだけでなく、感染を防ぐためにオフィスのデスクに設置するタイプの注文も増加。各種パーティション商品は12月下旬までに約2万5000台販売し、全国の企業や学校などで設置されている。

1日2500~3000台の出荷作業に追われ、小泊社長は

北九州市の印刷会社

「役に立っていることに喜びを感じるが、夕方来る集配業者を待たせるほどマンパワーが不足気味です」と苦笑する。

コロナ感染が一旦落ち着いた20年9月、ホテルで創業50周年パーティーを開いた際、宴会のキャンセルが相次いで

ホテルや飲食店などで役立つ製品開発を続け、感染防止と経済再生の両立を探っている。「活動自粛を続けるのは難しいし経済を回すことも重要。その中でイベントなどの開催の可否を悩みながら判断すると思う。実施する際に少しでも安心して集まることのできるアイテムを提供していきたい」と話す。



受付用の段ボール製パーティション

グランド印刷提供

20年7月の熊本豪雨時に避難所で感染が広がったことを受け、避難所で使う段ボールベッドに飛沫防止ができる仕組みを作りたいと考える。感染状況が変化する中、臨機応変な対応でコロナ禍の市民生活を後押ししている。